

肺がん・結核検診、^{かくたん}喀痰検査、 胃がん検診を実施します

市では、早期にがんを発見し、適切な治療につなげるため、各種がん検診を実施しています。
肺がんも胃がんも、早期発見・早期治療であれば治る可能性が高い病気です。定期的に検診を受け、精密検査が必要となった場合は、必ず医療機関を受診しましょう。

肺がん・結核検診、喀痰検査



40代から増え始める「肺がん」は、がんによる死亡数の第1位です（人口動態統計2024）。喫煙者の罹患^{りかん}リスクが高いですが、非喫煙者にも罹患リスクがある肺がんもあります。早期には症状が見られないことも多く、進行して初めて症状が出ることもあります。

	肺がん・結核検診	喀痰検査
対象	令和8年4月1日時点で40歳以上の方 ※65歳以上の方は、検診の名称が結核検診となりますが、検査内容は同一です。	令和8年4月1日時点で50歳以上の方 ※肺がん・結核検診を受診された方で、喫煙指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）が600以上の方
検査方法	胸部エックス線撮影	喀痰細胞診（容器に痰を採取し提出）
実施方法	集団検診（肺がん・結核検診、喀痰検査を同時実施）	
自己負担額	500円 ※令和8年4月1日時点で65歳以上の方は無料	500円

胃がん検診



「胃がん」は、日本では50歳以降に多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。早い段階では自覚症状がほとんどなく、かなり進行しても症状がない場合があります。

- ◆対象 令和8年4月1日時点で40歳以上の方で、生まれの年号が大正・昭和の奇数年（西暦で偶数年）の方
- ◆検査方法 バリウムを用いた胃部エックス線撮影
- ◆実施方法 集団検診
- ◆自己負担額 500円
- ◆注意事項 次の方は、バリウムが気管に入り、誤嚥^{ごえん}性肺炎等重大な病気を引き起こす可能性があるため、医療機関を受診して胃内視鏡を受けることをお勧めします。
 - ・食べ物や飲み物が飲み込みにくく、むせやすい方
 - ・以前にバリウムの誤嚥があった方

